

**片山 治利 (Harutoshi Katayama)**

リサーチ&アドバイザリ部門

アプリケーションズ ジャパン

アプリケーション開発／近代化／アプリケーション・ガバナンス担当

シニア ディレクター

アナリスト

お客様へ

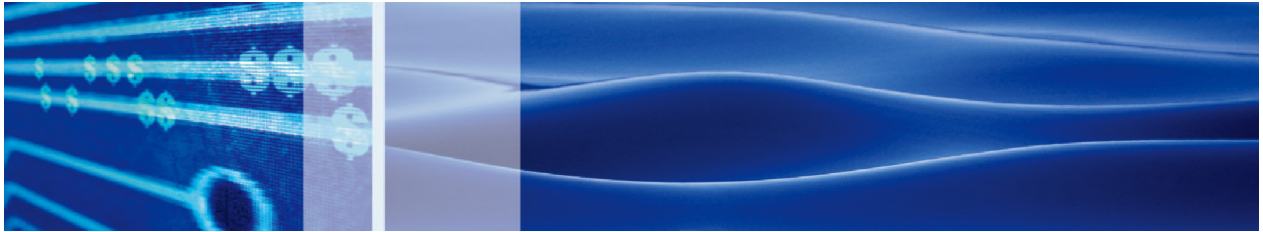
ガートナーは、ビジネス環境の変化に機敏に対応できるように、企業体質は俊敏でなければならない、そして、俊敏な企業体質の実現には、企業のサービスや業務を支えるアプリケーションの開発の迅速化（スピードや流動性）が必要であると、ここ数年指摘し続けてきました。その指摘どおり、最近のビジネス環境が、変動的、不確実、複雑かつ曖昧な状態であることを多くの企業が実感し、そのようなビジネス環境に対応するにはアジリティ（機敏性）が必要であるという認識（危機意識）が企業側にも高まっています。しかし、企業のアジリティを高めるためのアプリケーションのアジリティの向上は、まだこれからです。アプリケーション開発の領域では、ビジネスから IT 部門への要求・要件も変動的にならざるを得ず、事前に固定できるものではない、という認識が広まっています。このため、大企業を中心にアプリケーションのアジャイル型開発に取り組む企業が増えていますが、全社定着までの道のりはまだ遠い状況です。また、レガシー化した既存の基幹アプリケーションの存在が、開発に限らずあらゆる面でアプリケーションのアジリティを阻害しており、現状を放置すれば、日本経済全体にも負の影響を及ぼすとの指摘が見られます（2025 年の崖）。IT 部門は今、改めて自社が実現すべきビジネス価値を確認し、自社のアプリケーション・ポートフォリオを把握し、ビジネス価値を実現するためのアプリケーション戦略を策定し、採用すべきテクノロジーを検証し、PDCA の仕組みを回して取り組みを継続することが重要です。私は、市場におけるアプリケーション戦略、アプリケーション開発の在り方の動向を調査し、企業の IT 部門の皆さま方に適切な情報およびアドバイスを提供していきたいと考えています。

担当分野

アプリケーション開発、アプリケーション・ストラテジ（企業にとってのアプリケーションの価値を高めるための戦略）、ガバナンス（管理・統治）、オーバーホール（再構築や標準化、近代化、効率化）の動向分析

関連キーワード

アプリケーション開発、アプリケーション戦略、近代化、標準化、効率化、管理、ガバナンス／統治



実績

<レポート>

- －アプリケーション再構築の動向：開発／保守手法の選択を重視せよ
- －サーベイ・アナリシス：アプリケーション開発に求められる特性を重視したアプローチ
- －アプリケーションの特性に応じたアプリケーション開発／デリバリー方法の選択
- －ベスト・プラクティス：AD 自動化ツールを有効利用する 4 つのポイント
- －サーベイ・アナリシス：クラウド開発の理由の明確化が鍵
- －デジタル・ビジネス時代のアプリケーション開発：ビジネス機会の創出に貢献せよ
- －アジャイル型開発手法導入の壁を乗り越えるには
- －日本におけるアプリケーション開発のハイプ・サイクル：2018 年
- －サーベイ・アナリシス：アジャイル型開発や自動化ツールを生かしてアプリケーション開発の QCD を改善せよ
- －2019 年の展望：ビジネス・アプリケーションのアジリティ向上は焦眉の課題

<講演・プレゼンテーション>

- －デジタル・ビジネスを乗り切るハイモダル開発：ウォーターフォールとアジャイルの 2 つを使いこなせ
- －エンタプライズ・アジリティを実現せよ：基幹系アプリケーション開発の俊敏性向上が鍵となる
- －AD プロセス自動化の実際と自動化ツール選択のポイント
- －先行事例に学ぶ、アプリケーションのペース・レイヤ戦略
- －先行事例に学ぶ、クラウド上のアプリケーション開発成功のポイント
- －調査結果に見るアジャイル開発成功のポイント
- －AD 自動化ツール vs. コーディング：どちらを採用すべきか
- －アプリケーション戦略を進化させ、デジタル・イノベーションをリードせよ！実践するのは貴方だ！
- －アジャイル・トランスフォーメーションを成功に導く 5 つの施策
- －アプリケーション戦略をネクスト・ステージへ：ビジネスの変革と成長を牽引せよ

略歴

外資系システム・コンサルティング・ファーム、外資系証券会社、生命保険会社、電話会議サービス会社、米国系証券などの受渡・決済サービス会社にて、システム開発、プロジェクト・マネジメント、プロダクション・サポート、アカウント・マネジメント、また管理部門のジェネラル・マネージャーなどの業務に従事した後、2011 年 3 月より現職。主にアプリケーションの標準化、近代化などに関わるアプリケーション・ガバナンスについてのアドバイスと提言を行っている。

早稲田大学商学部卒。